

飛鳥資料館 秋期特別展 「飛鳥—自然と人と—」

飛鳥の都で、人々は自然とどのように向き合ってきたのでしょうか？飛鳥では、山地と丘陵地が間近にせまり、平坦地は狭く、都の中心部を横切るように川が流れています。こうした自然環境は、その後の日本の都一た例えば奈良や京都とは、あきらかに異なります。けれども、そんな飛鳥の地にも、何度かの中断をはさみながらも100年近く都がおかれていたのです。

そして、1300年が過ぎ去った今、飛鳥には人々が郷愁を感じる農村景観が広がります。山には木々が茂り、川には岩を縫うように清流が流れ、傾斜地には棚田が築かれ、その傍らには古代の遺跡が眠ります。

飛鳥時代から現代まで、飛鳥の人々は、この山や川の恵みを利用してきました。飛鳥の自然は、時代の流れと共に少しずつ姿を変えながらも、いつも人々の暮らしの側にありました。

今回の特別展では、飛鳥における自然と人との関わりを様々な角度から考えてみたいと思います。飛鳥時代の遺跡と人々の暮らしと自然が一体となった飛鳥の魅力を、飛鳥資料館写真コンテストに寄せられた写真と、文化財研究の成果を合わせてお楽しみください。(飛鳥資料館 西田 紀子)



会 期：10月11日(金)～12月1日(日) 月曜休館、
 ※10月14日(月)11月4日(月)は開館、10月15日(火)11月5日(火)は休館
 ※10月22日(火・祝)、11月3日(日)は無料開館日
 開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)
 ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/asuka/ お問い合わせ：☎0744-54-3561

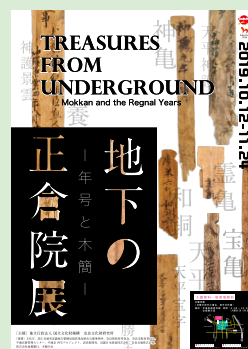
平城宮跡資料館 秋期特別展 「地下の正倉院展 一年号と木簡—」

平城宮跡資料館では、秋期特別展として恒例の「地下の正倉院展」を開催します。

本年は5月1日に天皇陛下が即位され、それにともない新しい元号「令和」が施行されました。典拠が漢籍ではなく、『万葉集』であったことも大きな話題となりました。そこで今年度は、年号が記された木簡をご覧いただく展示を企画しました。

年号は、西暦701年の「大宝」から「令和」まで、途切れることなく連続して使われており、奈良時代は年号の本格的な使用が始まって間もない時代といえます。年号の使用は、中国の思想や制度にもとづくもので、当時の改元は、めでたい亀や雲といった具体的なモノやコトを契機として、天皇の代始め以外でもおこなわれました。

木簡を通じて、奈良時代の年号に親しんでいただき、年号を書き記した当時の人々に思いをめぐらせていただければ幸いです。(都城発掘調査部 桑田 訓也/企画調整部 藤田 友香里)



会 期：10月12日(土)～11月24日(日) 月曜休館(月曜が祝日の場合は翌平日)
 I期：10/12(土)～10/27(日) II期：10/29(火)～11/10(日) III期：11/12(火)～11/24(日)
 開館時間：9：00～16：30(入館は16：00まで)
 ギャラリートーク I期：10/18(金)、II期：11/1(金)、III期：11/15(金) 各日14：30～
 ホームページ：https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/ お問い合わせ：☎0742-30-6753(連携推進課)

■ お知らせ

第11回東京講演会

2019年10月5日(土)10：00～16：00

於：有楽町朝日ホール

第125回公開講演会

2019年11月9日(土)13：00～16：00

於：平城宮跡資料館講堂

■ 記 録

文化財担当者研修(専門研修)

○建造物保存活用基礎課程

2019年7月1日～7月5日 20名

飛鳥資料館 春期特別展

4月23日(火)～6月30日(日) 10,024名

「骨ものがたり—環境考古学研究室のお仕事」

平城宮跡資料館 夏のこども展示

7月20日(土)～9月1日(日) 9,162名

「ならのみやこのしょくぶつえん—土の中の花鳥風月—」

飛鳥資料館 夏期企画展

7月19日(金)～9月1日(日) 3,070名

第10回写真コンテスト「飛鳥の古墳」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 https://www.nabunken.go.jp

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2019年9月